十1（プラスワン）

No.8

〒658-0047　神戸市東灘区御影3-7-11
日本キリスト教団 東神戸教会牧師

2015年8月発行

「歴史に残る夏」

牧師　横山順一

一九九九年、日の丸・君が代が国旗・国歌と強引に定められた時、政府は、しかし「強制はしない」と繰り返し明言しました。

それからわずか十六年、結果は正反対でした。東京・大阪をはじめ、起立・斉唱に従わない公立学校の教師たちが次々に処分されて行きました。

そして今年はついに、国立大学にまで掲揚・斉唱の要請が出されるに至りました。過去の経過からして「要請」が「通達」に変わるのも時間の問題だと思われます。

特定秘密保護法が制定され、「道徳」が教科化され、六月から国会で集団的自衛権を実質化する自衛隊法改正案が、異例の九月まで延長されて、なお論議されています。

その途上、参考人が招かれ、三人の憲法学者が明瞭に「憲法違反」と断じてから、政府・与党の姿勢は法案成立に向け、一層強硬なものとなって、遂に衆院を強行採決しました。

安倍首相は、この法案を「戦争立法」と呼ぶ人たちに「レッテル貼りだ」と述べましたが、これを「平和安全法」と呼ぶほうが、よほど姑息な「レッテル貼り」であることでしょう。幼稚な詭弁ですし、問題のすり替えでした。

けれどもこのかた、敢えて「敵」を作り、激しい批難を浴びせ続ける事を通して、自らの正当性を仕立てる手法が、あちこちで行われて来ました。

数だけを頼りに、協議をないがしろにした偽りの民主主義が蔓延してしまったこの国の現実を見ない訳には参りません。その行く末の戦争立法です。今夏はまさに「緊張の夏」でしょう。

かつてイスラエルの預言者たちは、権力やこの世の趨勢を恐れることなく、神さまから預けられた「正義」の言葉を大胆に語りました。時には自らの命の危険があったにも関わらず、それを乗り越えて世の不正を断じたのです。

私たちはその勇気を聖書から学んで来ました。神さまの愛に裏打ちされた「正義」に聞き従うこと、それを語り伝えることは、私たちに与えられた欠かせない大切な務めであるに違いありません。恐るるべきは、この務めを放棄して現実に背を向けることに他ならないと思います。共に手をつなぎ「人の世に正義あれ！」と祈りましょう。そして声を挙げましょう。

「正義が造り出すものは平和であり、正義が生み出すものはとこしえに安らかな信頼である。」

イザヤ書 32：17

以上は今年の兵庫教区平和聖日集会メッセージです。どういう訳だか、社会部委員会の中で昨年に続き、私がメッセージ作成担当となりました。

岡山の友人のSさんが、「デモになんか行きたくない」と嘆息しておられました。

もちろんSさんは毎度参加しておられるのです。デモなんかしなくて良い世の中が早く来て欲しい、それがSさんの願いです。

誰も好んでデモするのではありません。声を挙げなければ届かないものがあるのです。